

平成23年度 府立三島高等学校 学校評価報告書

1 めざす学校像

「明朗闊達」な校風の中で「自主・自律」の精神を尊重し「知、徳、体」のバランスのとれた人材の育成をめざす学校として、地域から信頼される学校をめざす。

- (1) 高い志をもち国際化する社会の中でたくましく生きていける広い見識と力をもった人材を育成する。
- (2) 「文武両道」「自主・自律」の精神を大切に、気概をもった人材を育成する。

2 学校教育自己診断における結果と分析・学校協議会における提言内容

学校教育自己診断の結果と分析 [平成22年月11月実施分]	学校協議会における提言内容
<p>【評価が高い項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全般的に、生徒、保護者、教職員とも、学校生活の楽しさや部活動の活発さ等については、高い評価である。 ・進路等に関する説明会、自分の将来を考える機会がある等については、共通して高いポイントである。 <p>【評価が低い項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者については、「人権を尊重する意識を育てようとしている」と回答したものが50%、生徒については、「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」と回答したものが33%、教職員については「人権尊重に関する課題について全教職員で話し合っている」が44%であった。 <p>【評価が異なる項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員は、「授業以外でも学力増進のための学習指導が組織的に行われている(86%)」と感じているが、生徒では「理解度や進路希望に合った補習講習が行えている」と答えた者が35%、保護者については「補習や講習がよく行えている」が45%であった。 ・教員は「生徒や保護者からの要望に対して誠実に対応している。(96%)」と考えているが、生徒にとっては「悩みや困ったことがあれば相談できる先生がいる」について、肯定的な回答は41%であった。また、保護者については「子どものことについて気軽に先生に相談できる」が39%であった。 <p>【課題とすべきこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の生徒は、マナー等を守り、人間関係を大切にすることが比較的できているが、さらに人権に関する取り組みの充実を図り、人権教育を推進する必要がある。 ・補習や講習の内容・あり方について、生徒の実態やニーズをもう一度分析しなおし、再構築する必要がある。特に、1、2年生の間は、進学向けの講習と並行して、基礎基本の定着のための講習も実施し、学習意欲を向上させる工夫が必要である。 	<p>第1回(7月23日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三島高校は、一人一人が文武両道を行っていることがよい。 ・多様な人材を学校に入れることが大事である。クラブ指導などで外の人材を利用するとか、生徒にいろんな社会を紹介する(色々な職業の話)人を同窓会にお願いするとかやり方があるのでは。 ・どうすれば効果的な学習ができるか、どうすれば「読解力」を身につけることができるかがポイントになると思われる。「読解力」を高めることを三島の「売り」にするのがいいのでは？ <p>第2回(12月17日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三島高校でもほとんど取り組んでおられることではないか？これらの取り組みもよくここまでやっているなあという感想。あとは質を問うこととシステム化することをではないか？情報発信においては、広報と募集は別と考えていただきたい。募集・広報戦略が公立校には見られない。戦略的広報を進めて、募集戦略を更に強化することを考えていくべきだ。 ・授業改善において、何ができていて何ができていないのかを相互に確認できているのか？授業の到達目標に対しての評価など授業評価のアンケートをもっと検討する必要はないか。授業研究は、相互に見るだけではなくテーマを決めて、狭い範囲(確認目標)で実施していく方が効果が上がるのではないか。 ・意欲がないのに学力が高い日本の学力の国際評価に対して、意欲の部分はどう培うのかについてしっかりした取り組みをお願いしたい。目標を提示し、学校として、生徒のやる気につながる意欲創出への取り組みが必要。 <p>第3回(2月18日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善のシステムを、ステップを踏んで取り組むべきだと思う。授業を外部のプロの目からみた授業改革を行うべきだと思う。また、ひとつの観点を中心に授業見学を行うことは、他教科の先生にとっても有意義になる。 ・生徒による評価の低い項目と同じ項目の教員側の数値にギャップがある。特定のものをきちんとアンケートで聞かないと本質的な答えは得られない。課題を見つけるためのアンケート、取り組みに対する評価のアンケート等、三島高校に即したアンケート内容を考えるべきである。 ・広報に関しては、何を広報するのか(教育活動の中味)、どこに広報するのかを考えることが大事である。対象を絞り込むことである。きちんとした広報活動は進路指導の一環であるし、教育活動である。

3 本年度の取組内容及び自己評価

	本年度の重点目標	具体的な取組内容	取組内容の自己評価
取組み①	教職員の資質の向上と組織的な学校運営の推進 (学力充実委員会)	(1) 研究授業・公開授業がより効果的なものになるよう見直す。 (2) 教職員学習会の実施 ・平成22年度の授業アンケート等の調査の分析を学力充実委員会が行い、本校生徒の生活・学習実態に対する認識の共有化を図る。 ・研究授業・公開授業と関連させた学習会を実施する。 (3) 生徒による授業アンケートの年2回の実施。(1学期末、3学期)	(1) 研究授業等については、各教科で実施したが、「生徒にとって満足がいく授業とは何か」等、当初ねらいとしていた「今後課題としていかなければならないことについて」の議論を深めるまでには至らなかった。 (2) 学習会については、内容を十分に検討することができず、準備不足であったことから、実施できなかった。 (3) 生徒による授業アンケートは、第1回は各教員が、生徒から授業に対する要望を聞くことを主眼としたアンケートを実施し、その後の授業改善の課題を明らかにすることを目的とした。第2回は、共通で実施し、集約した。2回目の評価結果は「よい」「どちらかといえばよい」との肯定的な意見が多い。 【課題】授業評価を授業の到達目標に対する評価を取り入れたものに改善していく必要がある。
取組み②	確かな学力の育成に向けた取組み (進路部、生徒部、教務部、情報管理部、学力充実委員会)	(1) 自学自習力の育成 ア 早朝登校して静かに自習できる部屋の整備 イ 宿題を確実にやってこさせることの徹底 ウ 部活動顧問、教科担任、クラス担任の連携の強化 (2) 学習支援の強化 ア 進学講習の充実 イ 成績不振の生徒への指導体制の強化	(1) ア・現在、進路指導室には早朝登校して勉強している生徒がたくさんいる。生徒のニーズにあわせて、進路指導室以外にも自習室を設置することとしたが、次年度のクラス増による普通教室確保のため、自習室設置ができなくなった。 ・夏期休業中には、3年生向けに普通教室のエアコンを入れ、自習室とした。 イ 各教科担任が工夫を重ね指導しているが、中にはやってこない生徒もいる。授業自体の改善を進める必要がある。 ウ 部員の学習課題を把握している顧問が多いが、部ごとの成績一覧表を作成し、参考とした。 (2) ア 進学講習を実施したが、特に2学年で希望する生徒が減少した(2年の参加生徒は、20%程度)。進学向けの講習だけでなく、基礎基本の定着のための講習も併せて実施し、選択の幅を広げる必要がある。 イ 各教科とも試験前に補習等を実施するなど、工夫しているが、日常的な指導体制を構築する必要がある。
取組み③	安全で安心な学校づくり (保健部、生徒部)	(1) 校内施設の整備 (2) 外部講師による人権教育講演会等の実施 (3) 部活動における危機管理のための研修会の実施 (4) 校内の施設・機器機材の安全性の点検 (5) 通学路危険マップの作成 (6) 救急救命講習会の実施	(1) エレベーター等の設置 (2) 2学期に、外部講師による教員向けの講習と生徒向けの人権教育講演会を実施した。 (3) 部活動中における安全管理についての生徒・顧問向けの講習会を実施した。 (4) 大掃除にあわせて点検を実施した。 (5) 自転車事故の減少を目的として、生徒の登校中の様子をビデオで撮影し、集会の中で問題点を指摘した。その結果事故件数は減少し、近所からの苦情も大幅に減少した。 (6) 100%の受講率をめざして4回のAED講習を実施したが、全教職員参加には至らなかった。 【課題】今年度、不審火があったので、防災計画の見直しを行い、これに基づいて避難訓練を実施し、実効性のある防災計画を立案する。